

２０２０年度式下中学校

進路通信　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　2020.6.5

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　 第2-②号



さくら

■進路希望調査を行うにあたって！

進路希望調査を行うにあたって。1枚目でも書きましたが、大半の人がまだ進路について漠然としかイメージできていないのではないでしょうか。この1年間で、担任の先生や家族の人とお話をしたり、友だちとの関わりの中で意外な特技を発見したりなど、いろいろな場面で自分が進んでいく道を見つけてもらえたらと思います。このように、高校選びは成績だけで決めるのではありません。みなさんに今回は進路を選ぶ上で注意してもらいたいことを伝えようと思います。

進路希望調査を書く上で参考にしながら、一度自分の進路について真剣に考えてみてくださいね。

* **絶対にやってほしくはないこと**

***１ ．高 校 を 知 ら ず に 進 学 先 を 決 め て は ダ メ ！***

成績や偏差値だけを見て、高校選びをすると「思ってたのと違う…。」という失敗に陥ります。それは、その高校が自分の特性に合った高校かどうかを考えずに決めたからです。行ってみて「やりたいことと違った」と思っても後の祭です。また、通学にかかる時間やその高校の周辺地域の様子、学校の雰囲気など、実際にその学校を見なければ分からないことはたくさんあります。体験入学やオープンキャンパスなどの機会を活用し、積極的に高校に足を運んで、自分の目で見て確かめてきて下さい。

***２ ． 勉 強 か ら の 逃 げ 道 と し て 就 職 を 選 ぶ の は 大 き な 間 違 い ！***

お金をもらって働くことは、そんなに甘いものではありません。 また、この不況のさなか、新規中学校卒業生を雇おうとする企業は非常に少ないです。現在は高校卒業生、大学卒業生にとっても就職難の時代です。もし仮に仕事につけたとしても、その職業に就き続けるためには、資格を取って自分のスキルアップを目指さなければいけません。そのために学力は絶対に必要になります。

本当にやりたいことがあり、その実現のために就職する、というのであれば大いに結構だと思いますが、就職を逃げ道と考えるのは大きな間違いだということを知っておいてくださいね。

***３ ． 人 間 関 係 に 左 右 さ れ な い よ う に ！***

先輩が行ってるから…。友だちが行くから…という選び方も、やっぱり大きな間違いです。人間関係は永遠に不変ではありません。それだけで高校を選ぶと、初めのうちはうまくいくかもしれません。しかし、その人間関係が壊れてしまうと、高校に行くことが苦痛でしかなくなってしまいます。高校に入ることはゴールではありません。卒業までの３年間は必ず行き続けてほしいです。３年間自分が続けられるようなカリキュラムの学校選択が必要です。

* **進路を選ぶ上で…**

***１ ． 自 分 は 何 が し た い の か を 考 え る***

ただ漠然と「高校へ行く」と考えても、なかなか志望校は思いつかないと思います。それよりも、「クラブ頑張りたい」 とか、「英語頑張りたい」などなど、自分がやりたいと思うことをハッキリさせれば、「○○部のある学校」とか「英語科を設置している学校」など、具体的に絞

り込んでいくことができます。

***２ ． 自 分 の 適 性 を 考 え る***

「手先が器用で、機械いじりが好き」という人であれば、工科高校や工業高校、又は工業系の専門学校といった進路が考えられます。お菓子作りが好きな人は、「パティシエールコース」という学科を設置している高校もあります。自分が何に向いているのかという点と、高校の特色が一致すれば、その高校が志望校となる可能性は高いと思いますよ。いろいろな特色のある学校がありますので、また相談してくださいね。

***３ ． ア ン テ ナ を 広 く***

上のようなことを考えるためには、情報を広く集める必要があります。 進学したあとに、「ええ、こんな学校があったん知らんかった…。あっちの方がよかった…。」なんてことにならないようにするためにも、広く情報を集める努力が必要です。もちろん、その情報が正しいかどうかを見極めることも必要です。

***４ ． 自 分 に 向 か な い こ と を 考 え る***

上の２つと逆の発想です。理科や数学が苦手な人が「理数科」に進学すると、絶対にしんどいです。英語の苦手な人が、英語教育に力を入れている高校に行けば、どうなるでしょう…。運動が苦手な人が、体育会系クラブの盛んな高校に行けば日々辛いと思います。そうやって、消去法で高校を選ぶというのも、「不本意入学」にならないようにするための方法の一つだと思います。